

本会議・代表質問(4月12日)わしの恵子議員

木造住宅の耐震改修助成 30万円上乘せを市長が約束

福祉・防災優先の名古屋のため、天守閣の木造復元は見直せ

4月12日に、日本共産党市会議員団を代表してわしの恵子議員が質問しました。

被災者や市民の思いにこたえた支援を

東日本大震災の救済・復興について、「被災者の方々が一番望んでいることをしっかり把握して被災者支援・復興支援に全力尽くすことを求め、市民の「何か支援ができないだろうか。明日はわが身、東海地震、浜岡原発は大丈夫だろうか」という思いについて市長の姿勢をたどしました。

市長は自衛隊や警察との共同訓練や地域委員会の役割などの外れな答弁に終始しました。

市職員を大幅削減する中での大量派遣

わしの議員は、日本共産党の現地対策本部や民医連から派遣された医療関係者からの「保育園や病院、デイサービス等の介護施設が全て流され、個人の力ではどうすることもできない。介護や医療に携わる人材が全くない」という状況を紹介しました。そして、4月7日現在、名古屋市が延べ705名の職員を被災地に派遣し、今後、職員の3割、100名を超える職員が亡くなった岩手県陸前高田市の全面的支援に入ることと、名古屋市が346名の職員を削減することの矛盾をたどしました。わしの議員は「普段から医療、介護、福祉、子育て支援などの強い基盤とネットワークがあってこそ、災害時にも大きな力を発揮できる。福祉を大事にしてこそいざというときに命も守れる」と指摘し、「災害から市民の命を守るためには、市の職員、とりわけ医療や介護などに携わる職員を削減するのは問題だ」と市長を追及しました。市長は「一肌も二肌も三肌もぬいで、苦しい中だが活動していただきたい」と答えました。

耐震改修助成90万円に申し込み殺到

わしの議員は「地震は防げなくても政治の力で震災は防ぐことができる」という立場で、名古屋市の地域防災計画や耐震改修助成の見直しを求めました。この中で、木造住宅耐震改修助成を30万円上乘せして90万円にしたところ(3月23日までの「期間限定」)300戸の枠に応募が2000戸以上もあり、わしの議員は「市の耐震改修助成金を大幅に増やせ」と求めました。住宅都市局長は「今回の募集並みの拡充」を約束しました。

浜岡原発の停止を求めよ

福島第1原発の事故は、「原子力発電は安全だから心配ない」という「安全神話」を完全にくずしました。わしの議員は、「原子力行政から安全神話を一掃し、原子力発電は本来的に危険性の高いものだ」という姿勢に切り替えるべきだ」と指摘し、「名古屋駅から130km、東海地震の想定震源域の真上にあり、世界で一番危険な浜岡原発の停止を中部電力に申し入れよ」と求めました。市長は「原発が安全ということはあり得ない。原発が必要かどうかは別に考える。付近の原発について調査を指示している」と答えました。



天守閣再建はいまやることか

日本共産党も大震災への救援募金を行っていますが、多くの方々から「こんなときに天守閣を木造に作り替えるのか」、「そんなお金があるなら被災地に回すべき」との声があります。わしの議員は「いまこそ東日本大震災を教訓に、大型開発優先の市政から福祉・防災最優先の市政に切り変えるべきだ」と厳しく指摘し「天守閣の木造再建はいまやるべきことではない」と市長を追及しました。市長は「名古屋の宝にしていきたい」と答えました。

わしの議員は「天守閣の木造復元など不要不急の事業は見直して、職員の削減はやめ、大震災被災者への支援、そして福祉・防災優先の名古屋にすべきだ。浜岡原発は即時停止を」と強く要求しました。

